

※このチラシは、インターネット等の情報をもとに個人が作成したものです。掲載する情報の真偽と、情報をもとにした言動等について、作者は一切の責任を持ちません。情報の真偽については各自でご確認いただき、行動は全て自己責任で行ってください。

秘

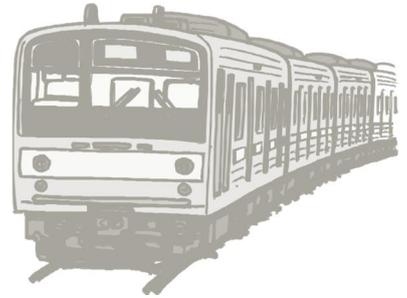
怒って当然!! 【殿様商売】JR西日本の横暴に異議あり!
嘘と問題だらけの「**男性排除車両**」にももの申す!
女性専用車両、「黙って協力するべき」と思っていないませんか?

◆「女性専用車両」の実施時間拡大(一日中!! 土日祝日も!!)

JR西日本が、2011年の春から女性車両(男性排除車両)の時間帯を拡大する。

◆「女性だけ」というのは嘘! 男性も乗れる「女性専用車両」

過去、大阪市営地下鉄は、「女性専用車両は、憲法(第13条・第14条)違反にあたる」として裁判で訴えられたことがある。そのとき大阪市営地下鉄の言い分を聞いて、裁判所は「それならば問題なろう」とした。果たして、市営地下鉄はなんと言ったのか? それは「女性専用車両は、男性が乗っても構わない任意協力のもの」という主張をしたのである。つまり、「男性を女性専用車両から強制的に降車させる」ことはもちろん、「執拗に(半ば強制的に)協力をお願いする」ことも、裁判所が認めたわけではない。あくまで、男性が女性専用車両に乗ろうが自由なのである。



◆大阪市営地下鉄はちゃんと正しい情報を発信している (JR西日本はどうだろうか?)

この裁判をうけて、大阪市営地下鉄のホームページには以下のように書いてある。

Q 「女性専用車両には女性しか乗れないのですか?」

A 「(省略) 男性のお客さまもご乗車されることがありますがご理解をお願いいたします。」

Q 「女性専用車両は、性別による差別ではないのですか?」

A 「女性専用車両については、女性のお客さま及び男性のお客さまのどちらにも旅客運送契約上の義務が発生するものではなく、任意のご協力のもとに行っているものであり、強制力を帯びないことや導入した目的の趣旨等から差別には当たらないと考えております。」 http://www.kotsu.city.osaka.jp/voice/faq_josei-senyo.html

そして、JR西日本も日本の鉄道会社である以上、日本国憲法(第13条・第14条)に違反するわけにはいかず、女性専用車両の性質についても、この点では大阪市営地下鉄と同様のものと考えられる。

◆乗るべき理由 ~女性専用車両の抱える問題~

大きく「物理的不便」と「人権問題」の2つに分けられる。

【物理的不便】 ごく一部をとりあげる。①混雑の男女比を考慮せず一律1両の女性車両を設置しているために、女性車両がガラガラで、一般車両がギュウギュウ詰めになってしまうことがある(車両内に可動式のついで等を設置し、1両の3分の1程度だけを女性優先スペースにしてもよいはずだ)。②階段からホームに出たときの、乗りやすい位置に女性車両があることも多い。③そのため男性が、女性車両の隣の車両に乗ろうとして乗り逃してしまうこともある。(男性だけは、大事な会議や試験に遅刻しても良いというのだろうか?) さらに、これは安全上の問題にもつながる。

日本国憲法

【第十三条】

すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする。

【第十四条】

すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない。

【人権問題、平等性】 実はこちらのほうが、より大きな問題である。痴漢の多くは男性だが、男性の多くは痴漢ではない。しかし、女性車両は、いわばすべての男性を痴漢予備軍とみなして排除しているのが現状である。もし、外国人のスリが多いからといって日本人専用車両ができれば、「人種差別」としてすぐに問題になるだろう。では、なぜ人種差別はダメで男性差別はいいと思ったのだろうか? それは「差別を差別として感じないほど、男性差別が男女双方において、無意識化されている」からである(これは、かつてアメリカで黒人が当たり前のように奴隷として扱われていた時代に、黒人差別は、最初はいわば差別としては意識されていなかったのによく似ている)。

JR西日本は痴漢対策のために女性車両を導入した。しかし、男性を痴漢予備軍であるかのように一律排除することこそが、痴漢と同様の許されざる人権蹂躞なのである。鉄道会社は1つの問題を解決するために、別の大きな問題を作ってしまったことに気づくべきだ。これほど侮辱的かつ差別的なことを認めるわけにはいかない。

◆差別意識を助長する女性車両

また、「女性車両」の存在じたいが、さらに男性差別を助長するという問題も深刻である。幼い頃からこのようなものを目にしていくと、男性も女性も「女性は特別扱いされて当然」、「男性は我慢して当然」という意識ができてしまう。「オトコは危険で、悪

質で、臭くて、排除されるべき存在だ」という意識ができてしまう。そして、「安全で、善良で、清潔な女性」が、「男性によって汚染されることのないように女性を保護すべきである」というような感覚が生まれてしまう。これはもはや「正当なる女性保護」ではない、男女平等ではなく「逆差別」である。差別そのものである。女性車両は、男性への差別と偏見を助長し、女性優遇と特権を増幅する。このような事態になってしまうのは、日本人が本当の意味での平等や人権を理解しないまま、ただただ空気として「男女平等」と「女性優遇」を取り違えていることに原因がある。



◆なぜ台湾と韓国では、女性車両が廃止されたのか？

台湾と韓国では、女性車両が男性と女性双方の反対により廃止された。日本の鉄道会社(と女性)は、「闇雲に優遇すること」は、正義でも平等でもないどころか、先進国の人間として、恥ずべき偽善(甘い・つけあがり)であることに気づかなければならない。 ※インドには今なお女性車両があるようだが、インドはカーブ制の社会でもあり、民主主義をうたう日本とは異なる独自の国家観で回っている。一方、憲法に男女平等をかかげる日本では、平等と人権の観点から女性車両は決して許されないものである。

◆鏡と広告に囲まれて ～「痴漢対策」から道を踏み外した女性専用車両～

現在、JR西日本の女性車両の扉には、左右の扉に鏡が貼り付けられており、さらにその下には、女性車両限定(または偏重)の広告が貼り付けられている。ここに鏡と広告という2つの問題がある。

【鏡】

鏡くらいと思うかもしれないが、ケジメを失ったところから暴走と腐敗がはじまる。なぜ、痴漢対策から鏡が出てくるのだろうか？ また、これがもし鏡ではなく、「女性車両だけを心地良い座席に変更」したとすればどうだろうか？ それらはもはや痴漢対策ではなく、過剰な女性優遇にすぎない。「鏡」も「心地よい座席」も問題は同じである。特定の顧客(女性)を優遇してサービスをあたえる(逆から見れば、もう一方の顧客を差別的に扱う)という発想そのものが問題なのだ。いつの間に、そしてなぜ、痴漢問題という防犯対策から「排他的な優遇サービス」に切り替わったのだろうか？

また、「それにストップがかからずやってしまう」ことは、「JR西日本が暴走する部分を抱えている」ことを物語る証拠である。たとえ、鉄道会社がいくら女性をお姫様扱いしても、人は歪んだ鏡を使って自分を美しくすることはできない。

【女性車両限定広告】

次に広告についてである。JR西日本は、「どうせ男女に分かれているのだから、女性向けの広告で、多めに広告料をとれるならいいではないか？」というかもしれない(この逸脱と暴走こそが、「時間拡大」の本当の理由ではないのだろうか?)。はたして、JR西日本は、忘れていてのではないだろうか？ 女性車両はあくまで、男性の犠牲とご協力のもとに成り立っているということ。もし本当にJR西日本が、男性への感謝と申し訳なく思う気持ちを持っていれば、女性車両を痴漢対策最低限のものにしておくはずである。それを金儲けに転用しようなどは思わないはずである。利用者を差別的に扱い、不便をしいておきながら、さらに足蹴にするように金儲けまでしようという、信じられない考えが浮かんだり、またそれを実行したりすることはないはずである。

◆道を踏み外したJR西日本



企業不祥事というものは多くの場合、本来の目的を忘れて営利のために暴走したときに大きな危機が訪れている。今のJR西日本は、完全に道を踏み外している。鉄道会社の本来の目的とは、「すべてのお客様を安全快適に目的地に運ぶこと」である。間違っても、「女性の利用者だけを優遇」したり、「『痴漢対策』という建前で、男性を差別してまで金を稼ぐ」ことではない。それらはむしろ、鉄道会社の本来の目的に反するものである。

このようなJR西日本は、このままいけば、第二の福知山線事故のような事態すら起こしてしまうのではないかと私は危惧する(女性車両の抱える問題は、現場と上層部のへだたり、建前と本音の矛盾などがある。これらは福知山線事故の根源にあった問題と似ているように思える)。

すでに正常なバランス感覚が、欠如しているといわなければいけない。その行きつく先とはどこであろうか？ JR西日本は、表立って異議をとなえない日本の男性を粗末にして、女性を優遇することにより営利を得ようとしている。いわば声のあげることが知らない弱者を虐げてまで、金儲けに奔走しているのである。これほど不遜で顧客を馬鹿にしたことがあるだろうか？

理は、我々にある。これは怒って良い。いや、怒るべきである。JRは、乗客男女比に応じ、女性車を1両の半以下にし。JRは、男性差別してまで、犯罪対策を商売に脱線させるな。JRは、「痴漢冤罪」対策のため「男性車両」も作れ。女性のみなさん、男性を排除しないでください。警備員さん、JR西日本の職員さん、よくよく考えてください。カップル、家族連れの方も、男女いっしょに乗りましょう！男性も、国民の権利そして義務として、女性車両に乗りましょう！※このピラは個人が作成したものであり、JR西日本とは一切関係ありません。

インターネットで動画を見よう

YouTube や Google で「女性専用車両の問題を議論」を検索
おすすめの YouTube チャンネル

(冤罪) <http://www.youtube.com/user/TokyoMovieIIIaKaWom>

(乗車) <http://www.youtube.com/user/doctorsabetsu>

(演説) <http://www.youtube.com/user/SABETUHANTAIUNDOU>

「女性専用車両」への抗議はこちらへ
JR西日本お客様センター
電話(0570)00-2486
受付時間 朝6時～夜11時まで

「本当の平等、人権、正義が分からない国」を正すために、男性もぜひ、できるだけ女性専用車両に乗りましょう。